

2. 夏秋ピーマンの品種「下総2号」

(園試野菜花き部)

低温年で収量が安定し、黒変果の発生が少ない品種として「下総2号」が有望。土佐グリーンBタイプの果実で、果色はやや濃緑、草姿は立性で生育旺盛。収量高く、良果率で5%位まさる。適応地域は、県下全域、露地栽培用に向ける。

(1) 背景とねらい

近年食生活の変化もあって、需要の高いピーマンは果皮がうすく果肉のやわらかい1個30g前後のものが望まれている。

従来の品種「土佐グリーンB」はこの要望に適合し市場人気も高いが、栽培的には低温、乾燥条件などでアントシアン発現による黒変果が多発し問題となっている。

そこで「土佐グリーンB」タイプの果実で、しかも黒変発生が少ない品種の選択について検討した結果で、「下総2号」が有望と認められたので普及奨励に移す。

(2) 技術内容

1) 下総2号の特性

(ア) 果形、肉質はほぼ「土佐グリーンB」と同じタイプであるが、果色はやや濃緑で、外観的な品質はすぐれている。

(イ) 草姿は立性で葉色濃く生育旺盛である。また収量性は高く、特に低温年での収量が安定している。

(ウ) 障害果では「土佐グリーンB」に比べ、乱形異の発生がやや多いものの黒変果の発生は極めて少なく良果率で5%前後まさる。

2) 品種の育成元 協和種苗

3) 適応地域 県下全域

(3) 普及上の留意事項

1) パイプハウスを利用した長期栽培では茎葉の過繁茂が問題となるので使用をさける。

2) 栽培法については「土佐グリーンB」に準じてよい。

(4) 当該事項にかかる試験研究課題名

夏秋ピーマン品種比較試験

(5) 参考文献

昭和56、57年岩手園試野菜試験成績

(6) 試験成績の概要

表-1 生育

57年

項目 品種名	草丈	株の広がり		第一次 分枝ま での高さ	第1次 分枝の 開張度	収穫打切 時の分枝 節位	茎 径	全 重
		最大値	最小値					
下総2号	95.2 ^{cm}	97.2 ^{cm}	77.0 ^{cm}	17.4 ^{cm}	45°	9.0	2.4 ^{cm}	2,194 ^g
土佐グリーンB	82.2	91.2	76.0	15.4	59	13.4	2.0	1,460
土佐グリーンA	80.4	86.6	64.4	14.8	70	13.8	1.9	1,200
新さきがけ	92.8	95.0	79.0	16.4	45	9.4	2.3	1,730
新さきがけ2号	92.6	97.0	78.4	16.0	63	8.8	2.3	1,792
土佐ひかりD	83.2	92.8	63.0	14.2	60	13.4	2.0	1,418
ひじり	89.8	93.4	75.6	14.2	49	12.4	2.4	1,630
春 干	92.0	92.6	68.2	17.6	43	9.0	2.3	1,758
土佐夏秋グリーン	94.4	90.2	73.4	17.6	48	8.0	2.2	2,130

表-2 品種特性

57年

項目 品種名	7 月 2 日					9 月 1 日				総合 判定
	果色	果皮の ひだ	果皮の 厚さ	果形	果形 比	果色	果皮の ひだ	果皮の 厚さ	果形	
下総2号	濃 緑	やや多	薄 い	やや長	0.71	やや濃緑	やや多	薄 い	やや長	◎
土佐グリーンB	緑	"	"	"	0.69	緑	"	"	"	-
土佐グリーンA	"	"	"	"	0.72	やや濃緑	"	"	"	○
新さきがけ	濃 緑	"	"	"	0.70	"	"	"	"	◎
新さきがけ2号	"	"	"	長	0.74	"	"	"	"	-
土佐ひかりD	"	"	"	"	0.74	"	"	"	長	-
ひじり	緑	"	"	やや長	0.69	"	"	"	やや長	○
春 干	"	"	やや薄	"	0.68	緑	やや少	やや薄	"	-
土佐夏秋グリーン	濃 緑	やや少	中	"	0.69	濃緑	少	中	"	-

総合判定の◎印は良、○はやや良、-は並

表-3 収量

15株当り

項目 品種名	良果				障害果 (個数)				a 当り収量		1コ	良果	A品	収量	
	A		B		乱形 果	黒変 果	尻 ぐ れ	病 害 果	(A+B)		平均 重	率	率	比	
	個数	重量	個数	重量					個数	重量					
昭和56年	下総 2号	886	24.5	423	11.4	26	16	1	6	16,149	443	27.5	96.5	67.7	149
	土佐グリーンB	557	14.3	397	9.8	80	61	1	10	11,773	298	25.3	86.3	50.4	100
	土佐グリーンA	754	21.0	385	10.4	42	120	2	5	14,057	388	27.6	87.1	66.2	130
	新さきがけ	462	11.9	234	6.0	43	23	2	6	8,593	221	25.7	90.4	66.4	74
	新さきがけ2号	588	16.0	456	11.4	25	0	0	4	12,878	338	26.3	97.3	56.3	114
	土佐ひかりD	773	20.7	468	12.4	32	12	1	2	15,316	409	26.7	96.4	62.3	137
	春 干	644	16.4	335	8.5	38	57	3	7	12,081	307	25.5	90.4	65.8	103
	土佐夏秋グリーン	963	28.5	263	7.8	14	0	1	0	15,125	448	29.7	98.9	78.6	151
昭和57年	下総 2号	1,510	39.2	1,018	26.3	235	11	1	11	31,212	808	25.9	90.8	54.2	122
	土佐グリーンB	1,447	35.3	771	18.3	125	230	1	18	27,385	662	24.2	85.6	55.8	100
	土佐グリーンA	1,459	36.6	887	22.1	164	245	1	12	28,965	725	25.0	84.8	52.7	110
	新さきがけ	1,486	37.9	747	18.9	140	96	2	13	27,570	700	25.4	89.9	59.8	106
	新さきがけ2号	1,581	39.9	994	25.3	288	1	1	6	31,792	805	25.3	89.7	55.0	122
	土佐ひかりD	1,760	43.7	839	20.7	202	10	0	5	32,088	795	24.8	92.3	62.5	120
	ひ じ り	1,506	37.8	669	16.6	63	11	2	5	26,854	671	25.0	96.5	66.8	101
	春 干	1,561	40.4	858	20.2	240	98	3	20	29,867	749	25.1	87.0	56.2	113
土佐夏秋グリーン	2,071	56.8	542	16.2	80	0	2	4	32,262	901	27.9	96.8	76.7	136	

注1. 良果率：良果／全個数×100

A品率：A／A+B×100

A：色沢形状良好のもの

注2. 昭和56年 低温年

B：Aに準ずるもの

昭和57年 平常年

表-4 黒変果の品種間差異

項目 品種名		黒変果程度別発生個数 (15株当り)				発生率 %
		1	2	3	計	(2+3/収穫果数)
昭和56年	下総2号	9.5	14.0	2.0	25.5	0.6 %
	土佐グリーンB	38.5	56.5	4.5	61.0	5.5
	土佐グリーンA	41.0	98.0	21.5	156.5	9.1
	新さきがけ	11.0	17.5	5.5	30.5	3.0
	新さきがけ2号	2.5	0	0	2.5	0
	土佐ひかりD	9.0	11.0	1.0	21.0	0.9
	春干	37.0	40.5	16.0	93.5	1.5
	土佐夏秋グリーン	0	0	0	0	0
昭和57年	下総2号	4.0	9.5	1.5	15.0	0.4
	土佐グリーンB	28.5	145.0	85.0	258.5	8.9
	土佐グリーンA	62.0	159.5	85.5	307.0	8.8
	新さきがけ	15.0	70.0	26.0	111.0	3.9
	新さきがけ2号	0	1.0	0	1.0	0
	土佐ひかりD	3.5	9.5	0.5	13.5	0.4
	ひじり	5.0	6.5	4.0	15.5	0.5
	春干	19.0	73.5	24.5	117.0	3.5
土佐夏秋グリーン	0.5	0	0	0.5	0	

注) 黒変果程度別指数

1. わずかに黒変がみられる程度で販売可
2. 1と3の間で販売不可
3. 果実表面積の3割以上黒変したもの